



学校名 (学級の障がい種別)	J小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級	本事例の指導の形態	国語科 「へんとつくり」
在籍児童の実態	<p>【一般的な実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにいかないと、気持ちの浮き沈みが激しく、時には大声を出すことがある。 <p>【国語科に関する実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識が先行し、学習活動に自信をもてないことが多い。 ・問いに対する答えを文章中から抜き出すことができる。 ・考えを生み出したり、感想を書いたりすることは苦手。 ・漢字は比較的、進んで取り組むが、なかなか定着しない。 ・漢字は筆順ではなく、見たままの形を覚えてしまう面がある。 	目標・指導内容	<p>【目標】</p> <p>「漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解する。」</p> <p>【指導内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漢字のへんとつくりに分ける。 ○へんやつくりから、漢字を調べる。 ○へんやつくりから、漢字の読みを推測する。
指導の経過・工夫点 子どもの変容	<p>【工夫点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分割した漢字を提示することで、へんとつくりに着目しやすいようにした。 ・へんは青色、つくりは黄色に色分けすることで、左側は「へん」、右側は「つくり」を意識できるようにした。 ・同じへん、つくり仲間分けさせることで、例えば、さんずい(へん)は「水に関係している」ということに自分から気付くことができるようにした。 ・楽しくへん・つくりを覚えられるよう、部首カードを活用した。 <p>【指導・支援の実際】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分割した漢字から、漢字を作り出す際、はじめは漢字が分かれていることに少し戸惑っていたが、1つ出来ると次々に作ることができていた。 ・へん・つくりになっている漢字を、国語の教科書から探させた。色分けしていることで、選ぶ際、かんむりやかまえ、たれ、あしを「これはへんでもつくりでもないね。」と、選ぶことはなかった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="564 1335 871 1563">  </div> <div data-bbox="1082 1346 1382 1570">  </div> </div> <p style="text-align: center;">《教科書から漢字を探し、へんやつくりに分ける様子》</p> <p style="text-align: center;">《部首カード》</p>		
成果と課題 今後の方向	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を学習するまでは漢字を1つの形として捉えていたが、漢字の分割と色分けで部分と部分に着目しやすくしたことでへん・つくりがあることに気付いていた。 ・振り返りでも、「へんのときは、右側だけ覚えればいいんだね」と、効率的に漢字を覚えようと工夫する姿もみられた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間だけだったこともあり、いろいろなへんやつくりの名称を知ったり覚えたりする時間は取れなかった。 <p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の困りを受け止めた上で、学習内容に着目させるための教材教具の工夫の手立てを打つことが、理解のための支援につながった。定着に向けては、さらに理解を広げられる手立てを講じ、定着のための支援の在り方について模索していきたい。 		